

養護採点基準

5枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)	採 点 上 の 注 意	配 点
① 1	<ul style="list-style-type: none"> ・一定の時期に集中的、総合的に行うようにし、校長の指導の下、保健主事、学級担任、養護教諭等が連携して取り組むことによって、教育的効果を高めることができるようにすること。 ・学校保健安全法施行規則に規定された項目以外を学校の判断で加えて実施する場合には、健康診断の趣旨や目的に沿って設置者及び学校の責任で、その実施の目的等と、義務付けでないことを明示し、保護者等に周知した上で、理解と同意を得て実施すること。 ・検査等を実施する方法や役割分担、ついたてなどの物や人の配置等を工夫したり、補助や記録を児童生徒等にさせて他の児童生徒等に結果が知られたりすること等のないよう、児童生徒等のプライバシーの保護に十分な配慮を行うこと。 ・個人が特定される情報が、外部に漏れたりすることのないよう、健康診断票等の個人情報の管理に十分配慮すること。 ・診察や心電図検査等、衣服を脱いで実施するものは、全ての校種・学年で男女別に実施する等の配慮をすること。 ・感染症又は食中毒が発生したときや、風水害等により感染症の発生のおそれがあるときは、集団への対応が必要となることから、これらの事態に素早く適切に対応できるよう、臨時の健康診断を行うこと。 	<p>3つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。</p>	<p>各 4 × 3</p> <p style="text-align: right;">3 2</p>
2	<p>両肩の高さの左右不均衡の有無</p> <hr/> <p>肩甲骨の高さと位置の左右不均衡の有無</p> <hr/> <p>体の脇線の左右不均衡の有無</p> <hr/> <p>背部及び腰部の左右の高さの不均衡の有無</p>	<p>内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。</p>	<p>各 2 × 4</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の児童生徒等特有の成長特性を評価できる。 ・「肥満」や「やせ」といった栄養状態の変化、それに加えて、低身長、高身長、性早熟症等といった病気を早期に把握することができる。 ・成長曲線パターンの変化は目で見て分かるので、児童生徒等及び保護者がその変化の様子を容易に理解できる。 ・成長曲線と肥満度曲線を併せ用いることで、「肥満」や「やせ」の状態を分かりやすく評価できる。 	<p>3つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。</p>	<p>各 4 × 3</p>

養護採点基準

5枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
1	(ア) 皮膚血管の拡張と下肢への血液貯留のために血圧が低下，脳血流が減少して起こるもので，めまいや失神等の症状がみられる。	内容を正しくとらえていれば，表現は異なってもよい。	各3×4
	(イ) 大量の発汗があり，水のみを補給した場合に血液の塩分濃度が低下して起こるもので，筋の興奮性が亢進して，四肢や腹筋のけいれんと筋肉痛が起こる。		
	(ウ) 脱水によるもので，全身倦怠感，脱力感，めまい，吐き気，嘔吐，頭痛等の症状が起こる。体温の上昇は顕著ではない。		
	(エ) 高体温と意識障害が特徴である。意識障害は，周囲の状況が分からなくなる状態から昏睡まで，程度は様々である。脱水が背景にあることが多く，血液凝固障害，脳，肝，腎，心，肺等の全身の多臓器障害を合併し，死亡率が高い。		
2	<ul style="list-style-type: none"> ・風通しが良い日陰や冷房の効いた所に運び，衣服をゆるめて楽にする。 ・本人が楽な体位にするが，顔面が蒼白で脈が弱いときには，足を高くした体位にする。 ・意識があり，吐き気や嘔吐等がなければ，水分補給をさせる。経口補水液やスポーツ飲料か，薄い食塩水等を飲ませる。 ・皮膚の温度が高いときには，うちわや扇風機等で風を送ったり，下着の上から水をかけたりすることや，氷のう等を前頸部の両脇，腋窩部，鼠径部に当てることにより，体温を下げる。 ・皮膚が冷たかったり，震えがあるときには，乾いたタオル等で皮膚をマッサージする。 ・自力で水分の摂取ができないときや，熱射病の症状があるときは，緊急で医療機関に搬送する。 ・意識がもうろうとしている，体温が極端に高い等の症状がある場合は，ただちに119番通報し，救急隊が到着するまで体を冷やしつづける。 ・熱痙攣や熱疲労の症状がおさまらないときは，できるだけ早く医師の診察を受けさせる。 ・意識がないときは，一次救命処置の手順により手当を行う。 	3つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば，表現は異なってもよい。	各6×3
3	<p>熱中症とは暑いときに体温調節がうまくできなくなって起きる病気であり，梅雨の合間に突然気温が上昇した日や梅雨明けの蒸し暑い日等，身体が暑さに慣れていないときに起こりやすいことや，暑い季節は，朝や夕方でも熱中症が発生することがあり，肥満傾向の人，体力の低い人，体調の悪い人は熱中症になりやすいことを理解させる。</p> <p>これらのことを踏まえ，暑いときに無理な運動はしないこと，体の調子が悪いときは運動をしないこと，異常を感じたら直ぐに周りの者に申し出ること，汗をよく吸い取る・通気性のよい服等を身に付けること，水分・塩分をこまめにしっかりとること，疲労・睡眠不足・朝食抜きを避け規則正しい生活をするを指導する。</p>	内容を正しくとらえていれば，表現は異なってもよい。	2 4

養護採点基準

5枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 (例)		採 点 上 の 注 意	配 点
3	1	記号	正しい内容	記号と正しい内容が、ともに合っているものだけを正答とする。 正しい内容については、内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各6×2
		(ウ)	流行性耳下腺炎にあつては、耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後五日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで。		
	(オ)	咽頭結膜熱にあつては、主要症状が消退した後二日を経過するまで。			
	2	早期回復するための指導内容	発熱、せき、目の充血、体に赤い発疹が見られたことから、麻しんの疑いがあるので、早期に受診すること。また、麻しんは感染力が強く、脳炎等、重い合併症が発症することがあるので適切な治療を受け、安静・睡眠・栄養に十分気を付けること。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各5×2
2	感染拡大防止を図るための指導内容	予防接種歴を確認し、来室した日以前の生徒の行動を聞き取り、別室に移動させ、麻しんは感染力が非常に強いので、学校保健安全法により出席停止の措置がとられることや、せきやくしゃみ、空気中を漂うウイルス粒子を吸い込むだけで感染するので、感染の心配がなくなるまで休養すること。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。		
4	<ul style="list-style-type: none"> 薬物乱用防止教室は、学校保健計画において位置付け、全ての中学校及び高等学校において年1回は開催するとともに、地域の実情に応じて小学校においても開催に努めること。 薬物等に関する専門的な知識を有する警察職員、麻薬取締官OB、学校薬剤師等の協力を得るため、関係機関等との連携の充実を図ること。 教員以外の指導者による効果的な指導に必要な薬物乱用に関する最新の知見のみならず、児童生徒の発達段階、体育・保健体育における指導状況等への理解を深めるため、国、都道府県、関係機関等が開催する研修会を充実すること。 		2つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各5×2	10

養護採点基準

5枚のうち4

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)	採 点 上 の 注 意	配 点
5	(1) 上腕骨		各4×6 24
	(2) 橈骨		
	(3) 尺骨		
	(4) 脛骨	脛骨 もよい。	
	(5) 腓骨		
	(6) 踵骨		
6	(ア) (d)		各4×4
	(イ) (a)		
	(ウ) (b)		
	(エ) (c)		
6	<p>当該児童に寄り添う声かけをし、生活の様子を聞き取り、安全な状態であるかを確認するとともに、受傷原因を尋ね、児童の話した言葉、そのときの児童の表情や態度、傷の部位や程度について記録をする。</p> <p>管理職、学級担任等に相談・報告し、保護者等との連携に係る対応を協議する。</p> <p>保護者に連絡し、受傷原因等を情報収集し、管理職に報告する。</p> <p>管理職の指示の下で、教育委員会への報告や、児童相談所への通告の文書を作成する。</p> <p>スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等の専門家及び関係機関との連携調整を行うとともに、学校医等から指導助言を得る。</p> <p>校内組織会議等が開催された際、児童の支援方法、保護者の対応に関すること、教員の役割分担等の協議に参画し、情報を共有する。</p>	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	30
			46

養護採点基準

5枚のうち5

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)	採 点 上 の 注 意	配 点	
7	交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などがかかわって発生すること。	順序は問わない。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 3 × 4	12
	交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。			
	自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。			
	応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、応急手当には、心肺蘇生等があること。			